

第5回稲沢市観光基本計画策定委員会 会議録

【日 時】平成29年10月25日（水）午後2時～午後4時8分

【場 所】稲沢市役所本庁舎3階 議員総会室

【出席者】稲沢市観光基本計画策定委員会委員（敬称略）

大澤 健	和歌山大学経済学部教授
栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事兼事務局長
古川正美	稲沢市観光協会事務局長
服部正見	稲沢商工会議所理事兼事務局長
野村 修	平和町商工会事務局長
松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
林 和伸	善光寺東海別院副住職
塩冶康人	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
伊藤哲浩	愛知県振興部観光局観光振興課長
岩間福幸	稲沢市経済環境部長
遠藤秀樹	稲沢市教育委員会教育部長
大野邦子	稲沢市観光協会ボランティア会・稲沢市ふるさとガイドの会
橋本昌博	株式会社国分農園代表取締役
高村宗克	特定非営利活動法人ネイヴル理事長
水谷光宏	株式会社水谷建設代表取締役（平和町商工会副会長）
【オブザーバー】 高木信治	稲沢市建設部長
【事務局】 渡會竜二	経済環境部調整監
澤田雄一	商工観光課長
久留宮庸和	商工観光課主幹
大屋 将	商工観光課主任

【議事次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 協議事項
 - (1) 計画の素案について
 - (2) その他
- 3 その他

【会議の概要】

[事務局]

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から稲沢市観光基本計画策定委員会を始めさ

させていただきます。本日はお忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。私はこの会議の進行を務めます、経済環境部商工観光課長の澤田雄一です。よろしく願いいたします。

始めに、会議の開催に当たり大澤委員長からご挨拶を頂戴したいと思います。

1 委員長あいさつ

[委員長]

アクションプランも含めた基本計画の姿がいよいよ具体的になってきました。具体化すればするほど悩みが多くなるのが観光という分野です。本日は事務局から中間段階での報告をいただきますが、今後に向けて皆さんから関連にご意見をいただければと思いますので、よろしく願いします。

[事務局]

ありがとうございました。次に3点、ご報告とお願いをさせていただきます。

初めに本日の会議ですが、山田 洋委員及び安藤之一委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

2点目としまして、本日の会議には市役所内でサリオパーク祖父江を始めとする都市公園を所管しております建設部の高木信治部長にオブザーバーとして出席していただいております。また、観光基本計画の策定に当たり業務支援をいただいております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様にも、これまでに引き続き事務局の補助として同席いただいておりますので、よろしく願いします。

3点目としまして、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり、「計画の素案について」、「その他」の2点です。

会議の議事進行につきましては、本委員会の設置要綱の規定により委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しにつきましては、大澤委員長をお願いいたします。

2 協議事項

(1) 計画の素案について

[委員長]

これより議事に入りたいと思います。

最初に協議事項(1)計画の素案について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン(素案)」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見、ご質問等がある委員は挙手をしてご発言をお願い

します。

「基本方針1、2、3に沿った形でアクションプランが掲載されている」というのが基本的な構成になっています。確認ですが、第3章の重点アクションプランについては、第4章の中から重点的に取り組むものを取り出す形になるのですか。

[事務局]

お見込みのとおりです。

[委員]

資料1の17ページに広域連携の話が出ています。この近辺のイベントですと、一宮市の「七夕まつり」が大きくて有名ですが、例えば「そぶえイチョウ黄葉まつり」で協力し合うなど、近隣市と連携するアイデアは具体的にお持ちですか。今も実際にやっているのでしょうか。

[事務局]

一宮市との間で具体的な連携実績が既にある訳ではありませんが、そうしたことも将来的に取り組んでいきたいとの考えから記載をしています。なお、近隣市ではありませんが、美濃路街道の沿線にある岐阜県、愛知県の7市2町で構成する美濃路街道連絡協議会に本市も参加しており、美濃路ウォークという部分的なイベントを現在も開催しています。こうした連携事業の発展形も今後あり得ると考えています。

[委員]

県内にある観光地等に対して「県民の関心が一番低い」というアンケート結果があります。それぞれの地域が持つ観光資源を県民にできるだけ認識してもらえるような形で、また、どちらの自治体にもメリットが生じるような形で連携の取組を進めていただきたいと思います。

[委員]

資料1の25ページ、アクションプラン2のNo.2「特産品の認定及び販路拡大」、26ページのNo.5「生産者と消費者をつなげる交流拠点の整備」、また28ページのアクションプラン5のNo.1「トイレ、休憩所、駐車場に関する情報提供」とNo.2「トイレ、休憩所、駐車場の適切な整備」について、こうした施設をまとめて考えると「道の駅」という施設が一番適当であり、具体的だと思います。稲沢市の近隣だと、愛西市の「立田ふれあいの里」や岐阜県海津市の「クレール平田」があります。これらの施設に目を向けると、非常に車の往来があり、地産の野菜やお土産も販売されています。もちろんトイレを使うために立ち寄られる方もいますし、観光情報を求められる方もいます。稲沢市でこうした施設の構想は具体的にあるのでしょうか。

[事務局]

具体的に「道の駅」の構想計画があるかと言われると、「道の駅」という名称でのものはありません。地域の特産品等が販売購入できる“道の駅的”な施設の要望はずっと以前から承っており、

市としても検討しているところですが、具体的に「どこかの幹線道路沿いに道の駅を作る」という計画はありません。こうした要望に対してクリアできる方策を引き続き検討していきたいと考えています。

[委員長]

もう少し具体的に「こうした拠点を整備する」と書いてあったほうがリアルで面白い感じはしますが、行政的にはあまり踏み込んで書けないということなののでしょうか。出来るとすればいつ頃までに出来るのか、既にある程度動いているのか、それとも今後ゼロから検討するという事なののでしょうか。

[委員]

教育委員会としては、「国の史跡指定を受けた矢合地区の尾張国分寺跡の周辺を中心に展示的な施設を作りたい」というプランがあります。しかし、それが「いつになるか」は今のところ申し上げることができません。財源的な裏付けがない以上、具体的な措置は出せない訳ですが、「来訪者への展示案内施設に併設する形で特産品の販売所を備える」といった“道の駅的”な施設を作ることについては、明文化したものがございます。ただし、時期的なことはまだお伝えすることが難しい状況です。

[委員]

稲沢市観光協会から本日配布された「おすすめグルメガイド in 稲沢」をご覧ください。掲載地図の中に「いなざわ梅まつり・3月上旬・愛知県植木センター」という囲み表記があります。そのすぐ上辺りに位置するのが「尾張国分寺跡」です。この中には県道が通っており、先ほども話がありましたように、国分寺跡を将来的に整備していく中で愛知県植木センターとの間にちょうど良いスペースがあるので、その辺りで「休憩所機能や特産品等の販売機能を持つ施設の整備が検討できないか」ということが尾張国分寺跡史跡保存整備基本構想の中で位置付けられています。そのため、今回の観光基本計画とも当然連携があるということです。

また、資料1の19、20ページに掲載されているアクションプラン8「“農”を活用した体験型観光メニューの造成」についてですが、この中に農業体験農園についての取り組みが記載されています。同じ地図を見ていただくと、先ほどの「尾張国分寺跡」から西へ向かった先に「一色下方」という国道155号との交差点があります。この交差点の南西にJA愛知西が産直広場を新規に整備しており、その一画には6,000㎡ほどの農業体験農園を作られるそうです。来年の3月に完成、4月以降に新規オープンする予定とのことで、トイレも当然ありますし、一つの交流拠点になり得るのではないかと考えています。

[委員長]

JAの施設は直売所ですか。

[委員]

そのとおりです。地図上には表示が無いのですが、国道 155 号の「一色下方」交差点の南側に JA の既存の産直施設があります。この施設が手狭なため、幹線道路沿いに土地を求められて現在建設中ということです。

[委員]

資料 1 の 15 ページ、アクションプラン 3 「武将観光の推進」の中で記載されている「三英傑の歴史がスタートした地」という記述について、何らかの裏付けは持っていますか。愛知県も武将観光を推進していますが、三重大学の山田先生の監修で根拠を言えるだけの理屈を持って取り組んでいます。専門家の方々から「本当にそうなのか」と指摘を受けることはないでしょうか。

[事務局]

貴重なご意見ありがとうございます。「三英傑の歴史がスタートした地」というキャッチフレーズは、専門家の先生が発した言葉ではありませんので、確認が必要だと考えます。なお、勝幡城が織田信長の生誕地であることは、静岡大学の小和田先生からご回答をいただいているのに加え、奈良大学の千田先生からお墨付きをいただいています。

[委員]

了解しました。

[委員長]

こうしたことは言ったもの勝ちです。その他いかがでしょうか。

[委員]

資料 1 の 3 ページ、基本方針 2 「稲沢市の魅力を体感でき、様々な分野や人をつなぐ観光メニユーの造成」の中で記載されている「各地域資源の歴史的背景やこだわりを“ヒト”との交流により伝えながら付加価値と満足度を高めていきます」という部分がとても良いと感じています。全体の説明の中で、稲沢市の観光は「人が来てお金を使ってもらうこと」以上に、「人と人との交流を図ること」が強調して掲げられており、その点が非常に良いと思います。

「人を通じた交流」という点で、11 ページに「おもてなし講座や研修会の開催」、12 ページに「多言語観光ボランティアガイド育成の検討」といった取り組みの記載があります。具体的に先ほど話に出た勝幡城を例に挙げると、碑があるだけの場所をただ訪れても、そこで思いを馳せることは中々難しいと思うのですが、ボランティアガイドの方々から三英傑の歴史だったり、「ここ勝幡城址が天下統一の歴史の出発点であると言われている」といった説明をされると、そこで人を通じた繋がりが生まれていくのではないかと思います。

また、14 ページに「国府宮はだか祭体験参加プログラムの検討」とありますが、実際に観光地に来て、何かを見て食べれば、お金も落ちますし、満足して帰ることができます。しかし、それ以上に「はだか祭の体験」を味わうことで、実際に祭りへ参加しなくても、禪を締めて周りの 2、

3人と押し合いの体験をするだけで人との繋がりが出来て、非常に濃密な経験をして帰っていただけだと思います。「人を通じた交流」がこうしたプログラムで出来ていくと非常に良いと思います。

最後にもう1点、1ページと2ページを見ると、「植木産業」や「植木・苗木」といった言葉が非常に多く出てくる印象がありますが、第4章のアクションプランの箇所になると出てこなくなります。「シビックプライドの醸成」という言葉がありましたが、「市民に稲沢市の地場産業を認識してもらうこと」を目的とすると、観光に繋がるかどうかは少し難しい部分があるかも知れませんが、アクションプランの中で「植木・苗木産業」に関連する項目が一つあってもいいのではないかと思います。

[委員長]

観光ボランティアガイドの養成について、「多言語」という言葉では出てくるのですが、アクションプランとしてあまり全面に出ていないのには何か理由があるのでしょうか。基本方針1「観光まちづくりを主体的に推進する人材育成と体制整備」では、先ほど委員が言われたとおり、ボランティアガイドを始めとする人たちが一番前面に立つことになると思うのですが、その育成についてははっきりと書かれていないように思います。

[委員]

織田信長の件についてですが、私どもとしては勝幡城生誕説を推していくのですが、既に愛西市では「NPO法人信長生誕を育む会」という団体が長く活動をされています。毎年5月には愛西市の勝幡小学校で「信長生誕祭」が開催されています。去年、一昨年は「うつけ太鼓」、「うつけ踊り」という催しも実施されました。先ほど委員が言われた広域連携についてですが、織田信長というコンテンツで言えば、愛西市とは連携できる土壌があるのではないかと考えています。

「藤の花」では江南市と津島市が同じ時期に「藤まつり」を開催されていますので、そうした連携も今後あり得ると考えています。

また、間もなくイチョウ黄葉の時期を迎えます。来月には「そぶえイチョウ黄葉まつり」が開催されます。祭りの際に市長はいつも「愛知県内の『こうよう』は、東の足助と西の祖父江である」と言います。東の足助は紅の「紅葉」なのですが、西の祖父江は黄色の「黄葉」です。ここで本を1冊ご紹介させていただきます。「死ぬまでに行きたい！世界の絶景 新・日本編」という本が今年の8月に発行されています。著者は詩歩さんという1990年生まれの女性で、シリーズ累計で60万部突破ということです。この本の中で「祖父江のイチョウ」をご紹介いただいています。ページ見開きの反対側には「日光のいろは坂」が載っており、それと対比できるぐらいの絶景ということです。この方は^{ツイッター}や^{インスタグラム}でも発信されていますので、今年の「そぶえイチョウ黄葉まつり」の来場者は必ず増えるものと思っています。

さらに、現在、愛知デスティネーションキャンペーンの関係で愛知県にお世話になっていますが、来週10月31日に名古屋駅のマリオットアソシアホテルで開催される全国宣伝販売促進会議の際には観光PRコーナーで盆栽の体験ブースを設けさせていただきます。その際、市内にお住まいの盆栽師とその弟子で森友美さんという若い女性の方に来ていただき、一緒に稲沢市のPR

をしていただきます。翌11月1日に実施されるエクスカージョンでは、旅行関係者の皆様に「そぶえイチョウ黄葉まつり」が開催される祖父江町山崎の祐専寺にバスでお越しいただきますので、市長によるトップセールスも行わせていただきます。

[事務局]

ボランティアガイドの育成に関する記述の件ですが、11ページのアクションプラン4「観光受入態勢（おもてなし環境・おもてなし態勢）の整備」の主な取り組みのNo.6で「観光ボランティアガイドの育成及び主体的な活動の支援」を項目として掲げています。また、12ページのアクションプラン5「外国人観光客の受入態勢整備」では、主な取り組みのNo.2で「多言語観光ボランティアガイド育成の検討」という項目も掲げています。

[委員長]

ボランティアガイドの育成について、「もっと前面に出してほしい」とか、「優先度を高くしてほしい」といった意見は無いですか。

[委員]

市がボランティアガイドの養成を行ったのは平成14年から16年にかけてで、3年連続で講座を開いていただきました。それから十何年経っているので、2次、3次の養成講座の開催も要望していますが、開催には至っていません。メンバーも増えることなく減るばかりで、新しいボランティアガイドが育ってきにくい現状があります。

[委員長]

実際に活動されている方は現在何人いるのですか。

[委員]

設立当時は50人程度のメンバーがいたのですが、体調が優れない方や高齢の方が増えてきて、今は20人ぐらいしかいません。稲沢市を5地区に分けて、その地区ごとにメンバーを構成していますので、1地区当たり5、6人程度になってしまっています。

一つ宣伝をさせていただきますが、台風が来た翌日の10月23日に東京の仏像研究会のメンバー28人から団体で稲沢市を見学したいとの申込をいただきました。台風の影響で一旦中止になりましたが、1か月スライドして11月後半に再び来ていただけることになりました。仏像を研究されている関直子さんという、インターネットで調べると本を出している方を始め、仏像の研究に長年取り組んでみえる方たちが名古屋を見学した後、稲沢市を1日観光したいというお話をいただきましたので、現在ボランティアガイドをさせていただく準備をしています。

[委員長]

先ほど事務局から回答があったアクションプランの記載部分は、「育成の機会も増やしていく」という趣旨で理解して良いですか。

[事務局]

ボランティアの育成についてですが、稲沢市には「稲沢市ふるさとガイドの会」と「稲沢市観光協会ボランティア」があります。観光協会も現在積極的に動いており、研修会も開催しています。先日も観光ボランティアの皆様と一緒に犬山城や明治村といった観光ボランティアの先進地の視察に出かけたところです。こうした活動を今後ますます発展させていければと思っています。

[委員長]

せっかくのアクションプランですので、「こうした研修会を開催します」とか、もう少し具体的に書いたほうが良いと思います。

もう1点、先ほど委員が言われた「計画書の後半になると『植木・苗木』の記述が出てこない」という点はどうなのでしょう。「もっと具体的に出してほしい」といった意見は無いですか。

[委員]

「いなざわ植木まつり」が4月に開催されていることは当然知っていますが、私自身の会社としては参加していませんし、年々祭りの規模も小さくなってきているように感じています。「稲沢まつり」も先々週に開催されましたが、植木関係の出店者数が徐々に減りつつあるように思います。そうした場所に参加されている方々の年齢が高齢化しています。私も今43歳で、社会人と言えば中間的な立場になりますがこの業界では若い方です。そうした中で、「今後どうしていくか」となった場合に、高齢の方々の意識として「地域を挙げてやっていこう」という想いがそれほど高くない現状があります。そのため、行政側から「やろう、やろう」と言ってもらえることももちろん必要ですが、ベースのある事業所の植木屋のおじさん達が自ら意識を上げていくことも同時に必要だと思います。両面からの働きかけをしないと、古い地場産業だからと言って安心はできないと思います。

[委員長]

アクションプランの中で「稲沢市らしさ」を打ち出すのであれば、植木のネタはもっと前に出しておいたほうが良いと思います。既存の植木まつりの発展形でもいいですし、事業者と話をしたり、関係部署と話をしたりする中で、稲沢市のイメージを高く伝えるようなものが何か出せると良いと思います。先ほど委員が「意識を変えなければいけない」と言われましたが、むしろ観光を使って意識が変わるような仕掛けをしていったほうが良いのではないのでしょうか。植木屋さん自身が「やっぱりやらないと駄目だよ」と感じるような仕掛けを一つでも作れたら良いと思います。

[事務局]

植木・苗木の関係についてですが、資料1の16ページ、アクションプラン4「産業観光の推進」の主な取り組みNo.4「ものづくり体験や収穫体験ができる産業観光メニューの造成」には少し含みがありまして、盆栽体験や苔玉作りといった既にも実施されているメニューも意識してこのよ

うな記載にしています。ご意見をいただきましたので、もう少し具体的な表記も検討していきたいと思います。

[委員長]

先ほどのボランティアの話もそうですし、今の植木の話もそうですが、大切なのは「分かりやすく伝えていくためにはどうしたら良いか」ということです。行政の計画なのでどうしても羅列型になってしまい、強弱が分かりにくい書き方にならざるを得ないのかもしれませんが、「稲沢市としてこれに取り組んでいきます」というものを打ち出したほうが色を出せますし、市役所の本気度も伝わる気がします。そうした姿勢を表すことも必要ではないかと思います。

[委員]

今も稲沢市では植木が多く生産されていますし、今月来月と愛知県の大村知事もご自分の名刺の裏側に「全国3位の植木の出荷本数を誇る県」と入れてPRをしていただいています。

先ほど他の委員から専門的な立場でのご意見もありましたので、「いなざわ植木まつり」と「稲沢まつり」における植木市の現状について申し上げます。植木まつりは例年4月20日から約10日間開催されています。国府宮の参道をお借りしているのですが、30年ほど前までは参道全てが植木のブースで埋め尽くされていました。植木生産者の方も70人程出店されていましたが、今はかなり人数が減っています。後継者の面で言えば、植木生産者の方はいますし、造園業者の方もいますが、植木市の形態で生計が成り立つかと言えば難しいのが現状です。本来の自分の仕事を中断してまで、祭りの10日間のために出店するという方は中々いません。そうした面で後継者がいないということです。また、秋の「稲沢まつり」では今も数件の植木屋さんが出店されていますが、30年前は参道の半分が植木のブースでした。近隣の市町村からも何か祭りやイベントがあると、「植木市を開いていただけないか」と言われますが、出店者が段々固定化されてしまっているのが現状です。

また、市民や県内にお住まいの方から「常に植木が買える場所はありませんか」と尋ねられることも多いのですが、昔は国府宮駅の北側に常設の植木販売施設「稲沢緑花木センター」がありました。もう一つ、市内福島町にある「千代田市民センター」の辺りにも「稲沢植木センター」という施設がありました。いずれも農地組合法人として、農協組合員が共同で常設の植木販売所を持っていたのですが、2施設とも閉鎖して久しいです。「植木を買いたい」と言う方には、「植木まつりに来てください」、「稲沢まつりでも買えます」と伝えたり、「矢合観音の近くにもお店が少しあります」と紹介しているのが現状です。「そぶえイチョウ黄葉まつり」でも稲沢市植木生産振興会の祖父江支所の方々に毎年出店していただいています。それもお付き合い程度ということで本当に寂しくなっているのが実情です。

[委員]

毎年5月か6月にポートメッセなごやで「エクステリア&ガーデンフェア名古屋」というイベントが開催されており、私どもの会社も依頼を受けて4年位続けて出店しています。週末の2日間のみの開催ですが、毎年2万人近い来場者が訪れます。私たちは自社の商品を売る、もしくは

会社自体をアピールするために2日間ブースを出し、チラシを配ったりしています。こうしたイベントでは企画の運営会社があって、業界の有名な方やNHKに出演している女性園芸家によるステージトークショーも行われたりします。このように同じような題材を使っているとしても、やり方次第で上手いくということもあります。今までの固定されたやり方を変えてみることで、新たな活性化に繋がることもあるのではないかと思います。

[委員長]

「今すぐ」という訳にはいかないでしょうが、植木まつりをお年寄りが集まりそうなイメージから、今風に「稲沢ガーデンフェスタ」と変えてみることも大事なポイントの一つではないかと思えます。従来とは全く違った層の人たちが盆栽に関心を持つようになっていきます。若者をターゲットに見据えたり、将来に繋がるようなイベントのあり方にしていくことも一つの手ではないかと思えます。植木屋さんの中でこうしたアイデアに対し、賛同してくれそうな人はいたりするのですか。

[委員]

若い人に接触していけば動いてくれると思います。自分の将来的な糧にもなると思います。

[委員長]

今の内容をアクションプランに書くことは難しいのでしょうか。「従来型の植木まつりを今後もやっていきます」ではなく、「稲沢市のイメージをリニューアルし、発信していけるような植木のイベントを新しくやります」と打ち出せると面白いと思うのですが。

[委員]

植木まつりでは単に植木を売るだけでなく、ガーデニングの相談コーナーも設けています。造園一式の販売も行っており、その内容も今までは松や石、燈籠を使った日本庭園が中心でしたが、最近では若者向けに芝生を張ったりした洋風スタイルにシフトしている状況があります。

また、名古屋おもてなし部将隊の初代信長役である慶俊さんがとても植木に興味を持たれていて、テレビで放送していただいたことがありました。部将隊を退いた後も毎年植木を買いに来ていただき、その影響で女性ファンの方々も一緒にお買い求めいただいたということもありました。

もう一つ、今年はさいたま市の大宮地区で世界盆栽大会が開催されました。その関係で外国人が大挙してやって来て、特に中国人が一時期松を爆買いしに訪れたという話も以前あったかと思えます。このように稲沢市の植木産業も新たな刺激を受けている状況にあります。

[事務局]

ご提案の件については、同じ経済環境部内に担当課がありますので、事務局で持ち帰り調整させていただきます。ということですのでよろしくお願いいたします。

[委員長]

「植木・盆栽」は本当にキラコンテンツで、インバウンドにも当然使えますし、若年層にも使えます。そういう意味で、今後「さすが稲沢、こういう手で来たのか」というプランが出てくることを期待したいです。他では決して真似できないものなので、是非ご検討いただければと思います。

[委員]

10 ページのアクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」についてですが、主な取り組みとして「観光協会における職員適正配置」、また「自主事業の推進による独立性の確保」、「法人化移行の検討」が掲げられてあります。いずれも難しい取り組みだと思いますが、具体的に進展の目標年次といえますか、アクションプラン全体を見渡すと観光協会の活躍の場が多岐にわたっていますので、「今後どのように充実強化していくか」という点について、もう少しコメントをいただきたいと思います。

[事務局]

アクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」についてですが、稲沢市観光協会が設立されて10年強が経過しました。この間に様々な事業が展開された一方で、課題もいくつか出てきました。観光協会に対する期待の大きさから、法人化の検討や組織機能に関する強化の要望をいただいていますし、外部評価でもいろいろとご指導をいただいているところです。今回、第2次観光基本計画を策定するに当たり、この先の10年間ににおける観光協会の位置付けは「益々の重責を担っていく」、「実施主体の中心になる」ということで間違い無いと考えています。力を遺憾なく発揮できる組織体となるように、今後10年間で活動と共に更なる飛躍を目指していくという内容にさせていただいたものです。

[委員長]

そうした考えは第5章の中で詳しく書くということですか。「行政」、「民間」、「組織等」とありますが、この組織の中には観光協会も含まれるのですか。

[事務局]

お見込みのとおりです。第5章「計画推進のための役割と体制」の中では、間違いなく観光協会が主体、中心的な位置付けとなります。

[委員長]

DMOを目指す方向で考えているということでしょうか。

[事務局]

「DMO」という固有名詞を使って良いかは分かりませんが、稲沢市は今後10年間で観光まちづくりを推進していきます。観光まちづくりを進める実施主体として、観光協会を中心としたア

クシヨンプラン検討会議が立ち上がっていますので、そうした組織体が今後発展する中でDMOの母体となれば結果的にそうだと思いますが、DMOを目指して観光まちづくりを進める訳ではないと考えています。実施主体の中心に観光協会を位置付け、アクションプラン検討会議のメンバーの方と共に組織体がどんどん発展するように、この10年間で進めて行ければと思っています。

[委員長]

今の回答でよろしいでしょうか。

[委員]

はい。

[委員長]

それでは時間の関係もありますので、本日示された計画素案については、事務局から提案いただいた内容で今後調整及び作成を進めて行くということで、皆様ご了解いただけますでしょうか。

<「了解」の声>

(2) その他

[委員長]

協議事項(2)その他について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料2「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議の開催状況について」に基づき説明】

[委員長]

これらのアイデアを実際の行動に移してもらうところまで出来たら、よりリアルな話になります。プランを作るというよりは、プランを口実にして動ける人たちをかき集めるところに本来の趣旨があると思います。ですから、観光まちづくりの基本として「プレイヤーは多いほうが良い」ということと「勝手なことをやる人たちがたくさんいる」、これが一番望ましい状態です。アイデアや計画だけで終わらずに、皆が「やろう、やろう」と言ってもらえるようなものになったら良いと思います。

ただ今の説明についてご意見のある方はいらっしゃいますか。第4回のアクションプラン検討会議が終わらないと何とも言えない感じがあるのですが、今の段階で「どうこう」ではなく、先ほど話に出た「植木・盆栽」であるとか、「既存のイベントをもう一度見つめ直してみる」といった意見も検討の中に入れていただけたらと思います。

[委員]

資料2のアイデア一覧を見ていただくと、予想どおりと言えば語弊があるかもしれませんが、マルシェや青空市場への意見が集中しています。恐らく今後この線を超えることはないのではないかと個人的に感じています。

以前に「行政の皆さんはプレイヤーになれない」という話がありましたが、この観光基本計画がこれからの10年間を見続けていくロングランの事業であるならば、行政の皆さんにも色々な形で汗をかいていただきたいと思います。ボランティアや市民活動などの様々な機会を通じて多くの方と触れ合ってきましたが、皆さん一生懸命に活動をされている方ばかりで、稲沢市は本当に恵まれていると思っています。「現場で汗を掻いてほしい」とは申しませんが、なるべくだったらそうした方たちに寄り添うような表現を使っていただくと皆さん報われると思います。

私が稲沢市で市民活動を始めたのは、「非営利活動法人祖父江のホタルを守る会」がきっかけで、今ではようやく自分のNPO法人を持ちましたが、その中で常々感じることがあります。「グレシャムの法則」という言葉がありまして、「悪貨が良貨を駆逐する」という意味です。ボランティアの報酬の話と近いのですが、第2回の策定委員会で大澤委員長から「市民の手で自分たちが参加できる観光を作り上げる」というお話があった際に、私はインセンティブについてお聞きしました。常々ボランティア活動や市民活動を通じて対価のあり方を考えますし、私自身もNPO法人で「地域通貨を通じたまちの活性化」を掲げて愛知県から認証をいただいています。これまでなるべく会議の中で我田引水にならないようにしてきましたが、ここで敢えて一つ提案したいのは、次のアクションプラン検討会議で出来れば「地域通貨の導入」を検討していただきたいと思っています。いくつかメリット、デメリットがありますし、「地域通貨とはそもそも何か」という議論もする必要もあるかも知れませんが、稲沢市では既に「いなっぴー商品券」や「地域商品券」を地域通貨として発行している実績があります。発行額面について言及することは避けませんが、この予算の何割かを地域通貨として供託していただければ、10年というスパンの中で成長する可能性があると思っています。マルシェもそうですが、その根底には物々交換があると思っています。「今必要でないものを一時的にキープするための手段が通貨である」、このことは子どもの思想で考えていただくと分かりやすいのですが、「どうしてお父さん仕事をするの」、「なぜお金を稼ぐの」という質問に対して即座に答えられる人は割と少ないと思います。「通貨が無い歴史は存在しない」という言葉もよく耳にします。そうした中で、出来れば子どもたちをこの10年計画の主役に加えていただきたいと思っています。是非ツールの中の選択肢の一つとして検討していただければと思います。

植木の話もありましたが、若い世代のガーデニングに対する需要も高いと思います。例えば、植木をプレゼントされた際に、そのお礼をどこかで買って持っていくとお礼の方が逆に高くなってしまうケースがあります。そうした場合に地域通貨があったら良いと思います。「いなっぴー商品券」の問題点として抽選方式があります。「公平性に欠けるのではないか」という議論が市民の間でも間違いなくされています。この点の解消にも繋がるのではないかと考えています。インタープリター、ボランティアガイド、文化・歴史・環境を始めとする分野の活動者を育てるに当たっても無報酬では限界があります。車に乗って来ればガソリン代もかかります。様々な形で支援はしていただいています、対価の部分が難しいと思います。こうした問題解決のツールとし

ていくつか例を申し上げましたが、是非ご検討いただけたらと思います。

[委員長]

「行政が計画を作って、住民がやりたいことをやる」ということはすごく難しい話で、結局最後は「皆がどれだけ乗り気になるか」に依存します。最近「媒体」という言葉を良く考えます。

「市民をくっ付けて、一緒になってやる気にさせるための『接着材』となる媒体って何なのか」、その媒体を上手く仕掛けることができれば、おそらく必然的に活動が起こってくると思います。繋ぐための一つの手段として「地域通貨」もあり得るのではないかと思いますし、そういう意味で次回の会議以降、市民が「いいね」と言ってくれるようなプランを是非見つけていただきたいと思います。「どうやったら皆がその気になってまとまって動いてくれるか」、そのための場づくりを是非アクションプラン検討会議でやっていただきたいと思います。

他にご意見、ご質問はありますか。他に無ければ、本日の議事を終了したいと思います。慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

3 その他

[事務局]

ありがとうございました。本日委員の皆様からいただきました貴重なご意見を踏まえ、今後の事務を進めてまいりますので、よろしくお願いします。

最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。次回の会議についてですが、11月28日(火)の午後2時から、会場は市役所本庁舎1階の大会議室で開催させていただきますので、よろしくお願いします。会議の内容としましては、市民の皆様から幅広く意見を募るため、パブリックコメントを12月末から実施する予定ですが、次回の会議ではそのための公表資料となる「計画案」をお示し、委員の皆様にご審議賜りたいと考えていますので、よろしくお願いします。詳細につきましては、文書で改めてご案内させていただきますが、事前にご予定いただけますと幸いです。

また、先ほど実施状況を説明いたしましたアクションプラン検討会議ですが、11月6日(月)午後7時から、稲沢市産業会館で第4回会議を開催いたします。市民主体によるアクションプランの検討過程をぜひ委員の皆様にもご覧いただければと思いますので、ご都合が付くようでしたら是非ともご来場ください。

以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

以上